タイトルは中央揃えMS明朝14ポイント

−−サブタイトルは改行MS明朝12ポイント−−

1 はじめに

　投稿原稿に執筆者名は記入しないでください。採用決定後、審査意見を踏まえた修正稿を提出する際、改めて執筆者情報を入れていただきます。

　原稿にページ番号はつけないでください。

2 書式

2.1 書式（style）について

　原稿は、このテンプレートに上書きする方法で作成してください。マージン、行あけ、フォント、イタリック等の文字修飾もこのテンプレートに従います。

　見出しのフォントサイズは10ポイントとし、見出し番号は半角Arial、見出しの日本語表記はMSゴシック、欧文表記はArielとします。見出し番号と見出しの間には、半角スペースを置いてください。

　本文のフォントサイズは10ポイント。和文はMS明朝、中国語・韓国語などの言語はMS明朝に準じたフォントを選んでください。欧文はTimes New Romanを使用します。数字はTimes New Romanの半角で記してください。

　日本語での句読点は「、」と「。」としてください。

2.1.1 図表について

　　図表と本文の間は1行空けます。図表内の文字・数値は容易に判読できるサイズとしてください。

　図1、図2・・・、表1、表2・・・のように通し番号を付すとともに、各図表にタイトル（キャプション）をつけてください。キャプションについては、数字（半角）および欧文はArial、和文はMSゴシック、その他の言語はMSゴシックに準じたフォントとします。

　図のキャプションは、図のすぐ下にセンタリングして示します。表の場合、キャプションは表のすぐ上にセンタリングして示します。

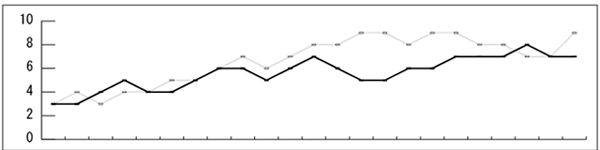


図1 サンプル10ポイント

表1 サンプル10ポイント



3 引用

　引用の書式は、原則APAスタイルに基づきます（*Publication Manual of the American Psychological Association*参照）。引用の典拠等を示す括弧については、和文の文脈では全角（ ）、欧文の文脈では半角括弧 ( ) を使います。「田中（2003）によると…」「Swain (2000) が述べるように…」など。欧文半角括弧の前後にはスペースを入れてください。

謝辞

　謝辞を記す場合、投稿時には個人を特定できる文言は入れないようご注意ください。

注

1. 注のフォントサイズは9ポイントです。

2. Wordの注釈機能を使用せず、手入力で作成してください。

3. 本文中の注番号は1)、2). . . のように、半角数字（Times New Roman）のあとに同フォントの片括弧をつけ、上付き文字としてください。

参考文献（原則APAスタイル）

記載スタイル（1）第1著者の名字をアルファベット順に揃える場合

Abrahams, D. (2015). *A primer on regression artifacts*. New York, NY: Guilford Press.

Cohen, Z. (2010). Statistical approaches to language learning strategies. In R. L. Oxford (Ed.), *Language learning strategies* (pp. 90-95). Manoa, HI: University of Hawaii Press.

藤岡光一（2017）「外国語教育におけるインターネット活用」*ARELE*, *19*, 253–262.

Goldman, A. (2016). A meta-analysis of test format effects on listening test performance: Focus on multiple-choice and open-ended formats. *Language Testing*, *20*(1), 219–250. doi: 10.1037/0278-6133.24.2.225.

임말자（2000）『보이지 않는 무지개』現代書社, 대구.

김삼순（1998）『순수한 쓰레기』MG Press, 대전.

太田巌（1997）『脳からみた医学的アプローチ』溪水社.

박달이（2014）『염색과 생활』선미사, 서울.

Shotton, M. A. (1989). *Computer addiction? A study of computer dependency*. London, England: Taylor & Francis.

山田泰一（2012）『授業態度を通して考える英語学習者の動機づけ』岩波書店.

著者（2015）「外国語学習についての一考察」*Language Education & Technology, 24,* 38–49.

※執筆者自身の研究を引用する場合、著者名は「著者」とし、参考文献の最後にまとめてください（投稿時のみ）。執筆者を含む複数著者の文献も同様の扱いとします。

記載スタイル（2）言語ごとに第1著者の名字を辞書配列順に揃える場合

Abrahams, D. (2015). *A primer on regression artifacts*. New York, NY: Guilford Press.

Cohen, Z. (2010). Statistical approaches to language learning strategies. In R. L. Oxford (Ed.), *Language learning strategies* (pp. 90-95). Manoa, HI: University of Hawaii Press, National Foreign Language Center at Manoa.

Goldman, A. (2016). A meta-analysis of test format effects on listening test performance: Focus on multiple-choice and open-ended formats. *Language Testing*, *20*(1), 219–250. doi: 10.1037/0278-6133.24.2.225.

Shotton, M. A. (1989). *Computer addiction? A study of computer dependency*. London, England: Taylor & Francis.

김삼순（1998）『순수한 쓰레기』MG Press, 대전.

박달이（2006）『염색과 생활』선미사, 서울.

임말자（1994）『보이지 않는 무지개』現代書社, 대구.

太田巌（1997）『脳からみた医学的アプローチ』溪水社.

藤岡光一（2017）「外国語教育におけるインターネット活用」*ARELE*, *19*, 253–262.

山田泰一（2012）『授業態度を通して考える英語学習者の動機づけ』岩波書店.

著者（2015）「外国語学習についての一考察」*Language Education & Technology, 24,* 38–49.

※執筆者自身の研究を引用する場合、著者名は「著者」とし、参考文献の最後にまとめてください（投稿時のみ）。執筆者を含む複数著者の文献も同様の扱いとします。